

「40年ぶりに赤ちゃんの泣き声」の集落も 市議会特別委員会が中山間地対策で先進地視察

10月27日から3日間、市議会中山間地対策特別委員会の視察に参加してきました。視察地は滋賀県米原市、京都府の綾部市と南丹市の3か所です。

今回の視察の目的は過疎化、高齢化が進んでいる集落の集落機能維持対策、地域づくりを学ぶことです。視察地ではどこでもこころよく迎えていただきました。

最初に訪れたのは米原市。同市は2005年（平成17年）に米原町、山東町など4町が合併してできた自治体です。人口は約4万1000人。

同市の高齢化率は23・3%ですが、市内の半数以上の自治会で55歳以上人口が40%を占めています。そこで同市で

は、集落の高齢化率がおおむね40%以上で、2以上の集落が連携及び協力する市民自治組織を結成しているところを対象に定住対策などの支援をすることにしました。高齢化が進みすぎると特徴があるところを打つようにしていくと特徴がある



りました。

次は綾部市です。ここは「水源の里」条例を全国に先駆けて制定した自治体として有名です。「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」

を合言葉に定住対策などの取り組みを進めてきました。

「水源の里」条例を制定したのは3年前ですが、住宅整備補助金（補助率2分の1、限度額150万円）、定住支援給付金（1月5万円、12か月を限度）、都市との交流促進などの対

策を進めた結果、対象としていた5集落のうち2集落で若者が入りました。ひとつの集落では40年ぶりに赤ちゃんの泣き声が聞こえるようになったといえます。ここでは地域農業に力を入れていくことも印象に残りました。

最後は南丹市美山町です。人口は約4500人。かやぶきの家などの美しい景観と豊かな都市交流活動で国土交通省の「優秀観光地づくり賞」金賞を受賞した（2000年度）ところ

で、いまや、平日でも大型バスが次々と入ってくるほど賑わいのあるまちになりました。農協の跡地を利用して地元野菜や加工品などを販売して観光スポットになっている道の駅や集落の8割がかやぶき屋根という「かやぶきの里」などを訪問して感心したのは、そこに住む人たちがふるさとに誇りを持っていて、地域資源をとでも大切にしていることでした。説明してくれた人たちの顔は本当にいい顔でした。

市議会の中山間地対策特別委員会では、今回の視察も参考にして議論を深め、中山間地振興条例の制定と対策強化を実現していきたいと考えています。

シリーズ 上越市内の橋

第15回 上綱子橋

「上綱子橋」と書いて「かみつなごばし」と読みます。市内西部の山間地、上綱子にあります。写真をごらんください。先代の上綱子橋も車こそ通れませんがまだそのままです。現役と先代が並んで残されているのはめずらしいことですね。橋柱にはどちらも「上綱子橋」と書いてありました。

橋長は約17メートルです。2008年（平成20年）2月竣工。



【写真上】綾部市の山間部でフキ栽培などを視察。【写真中】南丹市美山町の道の駅で。【写真下】美山町の「かやぶきの里」にて説明を受ける特別委一行。

